

平成26年度事業報告	
事業名	みんなのまちづくり情報発信事業
事業の概要・経緯	
【事業概要】 区民のまちづくりへの関心を高めるため、各校区の魅力・まちづくり活動・まちづくりに携わる人等を取り上げた情報誌「中央区つながるマガジン“まちのわ”」を製作・配置。平成26年度は、9月に5号、2月に6号を発行し、5号は「つながる」、6号を「きずく」というテーマで中央区のまちづくり活動を取りあげた。より多くの人に手にとっていただくため、市内の美容院に設置の依頼をした。また、読者アンケートの回答率をあげるため回答者への景品を準備した。 【経緯】 ○マガジンの発行 発行部数 10,000部/回 配布先 市の公共施設、病院、銀行、スーパー、書店、美容院、郵便局など	
事業の成果・反響	
マガジンの反響 ・アンケートは、前回各号平均20人弱の回答だったが、今回は5号で49人と倍以上の回答数となった。アンケート内容についてもまちづくりに関心を促すような質問を掲載。回答内容も「よかった」など、好評を得ている。 ○アンケートの具体的内容 面白かった理由、感想など (5号「つなぐ」の回答数 49人) ・今も伝統をつないでいる人々の姿や意思を知ると、実際に行ってみたくなる。 ・文化溢れる熊本にいたことが本当にうれしいし、わくわくする。 ・旅行で初めて熊本に来て、まちの情報がたくさん載っていてとてもおもしろかった。 ・「つなぐ」が熊本弁で手書きなのが温かく感じ、紙面で印象的だった。 ・知らない所で色々な方が色々な活動をされているんだなと知ることができて感謝している。 ・昔から継承されているものを知ることができ、継承することの大事さを改めて感じた。 (6号「きずく」の回答数 30人 アンケート締切りは27年5月末) ・2(きずく人で紹介)のお店は行ったことがあったので「こんな想いで作られたお店だったんだな」と感心し、また行きたくなった。 ・水前寺成趣園での着物サービスを知っていたが、実際の写真と風景を見てよいものだと思った。中央区は歴史と新しいものと両面があり魅力を感じる。 ・熊本の公共交通機関の特集が目にとまって面白かった。「長崎次郎書店」はずっといつてみたいとこだったのでピンポイントで嬉しかった。 ・えがおはとても良い。子ども達がいきいきとしている。熊本市も他の学校で取り組んでほしいと思う。 ・中央区に住んでいてもきづいていないことがたくさんあり、この「きずく」で知ることができた。 ・どのページも写真集のような美しさ、特に鳥的中央区は人の目線で異なる角度からの一枚一枚が心打たれた。	

平成26年度事業報告

事業名 区だより制作及び区民編集員養成講座

事業の概要・経緯

【目的】

区の特性を生かしたまちづくりの情報等を掲載し、区民の情報共有を図り一体感を醸成する。

【経緯】

平成26年度から中央区全世帯に配布をすることもあり、区民が必要とする情報、また中央区の特性、特色を考慮した内容を掲載した。3号については、平成25年度に公募し継続された4人の区民編集員が取材、執筆をした。

後半は、平成26年度に市政だよりなどで公募をした7人が加わり、11人が区民編集員として研修2回を受講し、4号の内容の企画と紙面構成を考え制作した。

【内容】

テーマ 3号 6月 水防
4号 10月 中央区の秋

事業の成果・反響

【成果】

できるだけ多くの人に手にとって見てもらうということを意識し、表紙に親しみのある写真を掲載し、紙面についても字ばかりにならないよう写真やイラストをいれた。また、3号を発行する際、写真についてフェイスブックなどで募集し、区民の方に関心をもっていただいた。(写真応募数 29枚)

中央平成25年、26年の区民編集員について、今後も中央区の広報に係わっていただくように予定している。



第3号の取材の様子



第4号の取材の様子



区民編集員養成講座

平成26年度事業報告	
事業名	③中央区、校区カルタ制作事業
事業の概要・経緯	
【事業概要】 将来的な「中央区カルタ」制作に向け、各校区ごとの、魅力や自慢を歌いこんだ「校区カルタ」づくりを地域に提案、活動を支援する。現在の進捗状況は以下のとおり。 ＜校区カルタの進捗状況＞ ①出水校区 平成25年度から「出水校区子どもネットワーク」、校区担当保健師と連携し、読み札案の素材掘り起こしのワークショップを1回、歴史勉強会を1回、読み札案作成のワークショップを1回、重複した読み札案を選別する作業部会を2回、解説文作成の作業部会を3回、合計8回開催、延べ119名参加。平成27年1月にデザインの企画コンペ実施、3月に50セット完成。平成27年6月7日(土)に出水小学校で校区カルタ大会を実施予定。 ②一新、黒髪校区 地域と区役所と連携し、ワークショップ開催により、読み札・解説・絵札案を作成中。平成26年度は、黒髪校区でワークショップを延3回、絵札案のまち歩きをしながらの写真撮影を延5回実施。 ③砂取、帯山西校区 小学校と校区自治協議会等が連携し、地元のみで読み札・解説・絵札案作成済。地元からの相談に対して、区役所から助言及びカルタづくりのノウハウを提供。	
事業の成果・反響	
カルタづくりに取り掛かった校区等の反響等 ・転勤族が多い地域で、30代から40代の在住歴短い母親たちがワークショップや地域の歴史勉強会に参加したことで、若い世代の方々がこれまで知らなかった地域の魅力を知るきっかけとなった。 ・校区カルタづくりは、子どもから高齢者まで、幅広い世代が関わりあうことができるツールになり得る。 ・その制作作業自体がまちづくり活動・地域活動への参加のきっかけとなり、希薄になりがちなコミュニティの活性化につながる。 ・校区カルタづくりをきっかけに、地域コミュニティ活動の新たな人材を発掘できる可能性がある。 ・校区の魅力や自慢を考える中で、改めて地域を振り返るきっかけとなった。	

「校区カルタ」制作の事例紹介 (平成26年度) ～ 出水校区 ～

第1回読み札選別作業部会

26年6月11日
門前荘にて



参加人数 8名

【参加者】

主任児童委員・わいわい子どもサポーター
民生委員・児童委員

地域から公募した読み札等を参考にしながら、
2グループに分かれて作成しました♪



【結果】 8割の読み札が作成できました。

第2回読み札選別作業部会

26年6月16日
戸井の外公園
集会場にて

参加人数 9名

【参加者】

主任児童委員・わいわい子どもサポーター
民生委員・児童委員

前回のワークショップで決まらなかった頭文字の
読み札を2グループに分かれて作成しました♪



【結果】

50音のうち、「を」「ん」を除いた頭文字の読み札が完成！

第1回解説文作業部会

26年6月24日
地域コミュニティ
センターにて

参加人数 13名

【参加者】

主任児童委員・わいわい子どもサポーター
民生委員・児童委員

3つのグループに分かれ、解説文を考えました♪



【結果】 8割の解説文が完成！

第2回解説文作業部会

26年7月8日
地域コミュニティ
センターにて

作成できていなかった8句の読み札に
解説文を作成するグループ ↓



参加人数 9名

【参加者】
主任児童委員・わいわい子どもサポーター
民生委員・児童委員

これまで作成した解説文を
添削するグループ



【結果】 すべての読み札の解説文が完成！

第3回解説文作業部会

26年7月22日
地域コミュニティ
センターにて



参加人数 10名

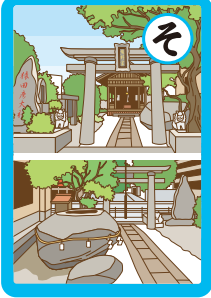
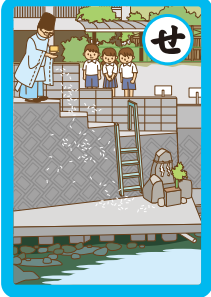
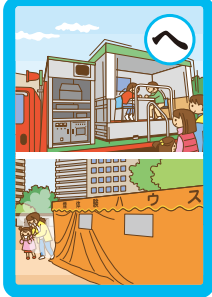
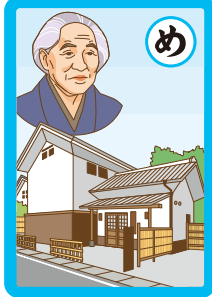
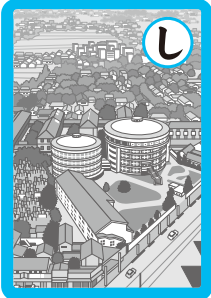
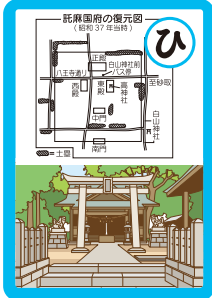
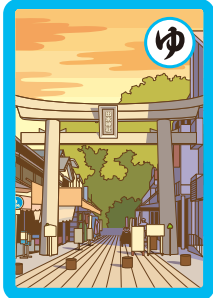
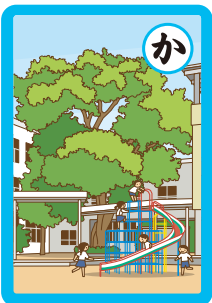
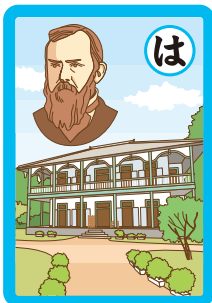
【参加者】

主任児童委員・わいわい子どもサポーター
民生委員・児童委員

これまでに完成した解説文を1つずつ読み合わせ、
確認を行いました♪
また、イラストの元になる写真を撮影する担当を決めました！

【結果】

解説文の構成が完了！写真¹²を担当する方も決まりました！



あ

あすの夢
担う我らの
出水つ子

い

今もなお
カタチをのこす
出水村役場

う

美しく
夜を彩る
こいあかり

え

笑顔で届ける
ふれあいお手紙
大作戦

お

お互いの
ホームが見える
駅ふたつ

か

カッコイイ
出水のシンボル
大エノキ

き

きらきらと
水がおどるよ
江津の湖

く

熊本の
正月飾る
水前寺もやし

け

元気に育て
わんぱく広場で
地域の宝

こ

公認キャラは
エノキングだよ
いずみっこ

さ

探し出せ
パンダが何匹
住んでいる？

し

女子商は
乙女が集った
円形校舎

す

水前寺公園
朝日にかがやく
富士の山

せ

せんたく川
8月1日
水神祭り

そ

礎石7つ
今も残るよ
熊野座神社

た

体育館
巡業・興行
賑わった

ち

知事公舎
ラジオ体操の
声ひびく

つ

椿公園
みんなが楽しむ
グラウンドゴルフ

て

汀女さん
爽やかに詠む
江津湖畔

と

登下校
安心・安全
見守り隊

な

夏休み
水着で直行
湧水プール

に

西日本
唯一手書きの
スターレーン

ぬ

ぬくめて
美味しい
いきなり団子

ね

粘り強く
文武両道
出水中

の

能舞台
かがり火ゆらめK4
夏の夜

は

初めての
男女共学
ジェーンズ邸

ひ

肥後の国
ここに国府が
あったとき

ふ

ふれあい通り
みんなの心が
通うまち

へ

平気だよ
準備万端
学ぼう災

ほ

盆踊り
みんなで一緒に
出水音頭

ま

毎年の
元旦にお参り
出水神社

み

見てみたい
黒煙あがる
軽便鉄道

む

昔から
子ども見守る
お地藏さん

め

名誉市民
生涯一記者
後藤是山

も

門外不出
玄宅和尚の
からし蓮根

や

やぶさめの
馬かけぬける
成趣園

ゆ

夕ぐれに
静かにたたずむ
大鳥居

よ

よいいどん!!
町内対抗
運動会

ら

ランドセルで
毎日行くよ
出水小

り

リヤカーで
地蔵引きます
パンダ公園

る

るると響く
天空の
鳴龍

れ

歴史ある
礎寂びたり
国分寺

ろ

六年生
皆で朝ボラ
ありがとう

わ

和歌伝え
いにしえ想う
古今伝授の間

【出水うづ子】
出水小学校に通う子どもたちのことを昔から「出水うづ子」と呼んでいます。将来、出水校区を背負ってほしいという願いが込められています。

【出水小学校の大エノキ】
出水小学校の第一校舎と第二校舎の間の中庭には、樹齢200年余りと伝わるエノキの樹がそびえ立っています。出水小学校のシンボルでもあります。

【バンド公園】
出入口の欄には、見る角度によって現れる全部で8匹のバンドの絵が描かれています。出水校区ではバンド公園と呼ばれ親しまれています。

【芝生公園】
水前寺成徳園の一角にあり、ここには熊本市立体育館が以前、ここは熊本大学体育館がありました。スポーツだけでなく、プロレス巡業やコンサート等の催しも多くさん行われています。

【水前寺児童公園】
公園内には、無料開放されている湧き水プールがあります。場所の子どもたちが自宅から水着で向かう風景は、夏の風物詩のひとつです。

【ジェーンズ邸】
熊本県学校に外国人教師ジェーンズを迎えるために明治4年に建てられた熊本最初の洋館。建築主ジェーンズ氏日本初で男塾学校を築いたとされています。日本赤十字病院の地としても使われ昭和65年動物跡跡現在に移築復され歴史の重要文化財となっています。

【出水神社】
水前寺成徳園の中にある神社。明治11年建立で、毎年元旦には地域の住民や市内一円より多くの参拝者でにぎわいます。

【出水神社流鏝馬】
毎年、新緑御大祭の奉仕行事として古くから伝わっています。武者姿の騎手が馬にまたがり、櫓の扇に矢を放ちます。

【熊本市総合体育館・青年会館の鳴龍】
青年会館談話ホールで手をたくと龍の鳴き声が聞こえてきます。天井にある絵は、日光東照宮にある鳴龍の下絵です。

【出水村役場】
明治22年国府村・今村・長瀬村が合併して飽託郡出水村となり、国府二丁目現在の地に村役場が置かれました。その建物は今も現存しています。

【江津湖】
出水小学校の児童が遠足や校外学習で訪れる江津湖は、ひょうたん型をしています。水蓮水を100%天然地下水でまかなう「日本一」の地下水都市、熊本一のシンボルの一つです。

【熊本国府高校】
熊本女子商業高等学校には、一つの円形型の校舎があり、人目をひくモダンな造りでした。棟目は昭和31年、2棟目は昭和36年に完成し、その後、昭和56年に解体・移築されました。

【知事公舎】
水前寺二丁目にある知事公舎の敷地内では、夏休みに3町内の愛育会(子ども会)の子どもたちがラジオ体操をしています。

【水前寺スーレーン】
愛育会(子ども会)のイベント等によく使われる「水前寺スーレーン」は、昔ながらの手書きスコアのボウリング場です。

【託麻国府】
奈良時代、白山神社のあたりに国府(現在でいう県庁)の建物が残り、当時は200メートル四方に広がっていたと言われています。現在でも国府という地名が残っています。

【軽便鉄道】
明治40年ごろ、安政橋から水前寺大島居前まで鉄道が走っていました。当時は燃料が石炭であったため黒煙を出していました。

【出水神社大鳥居】
水前寺の大鳥居は、細川園童公没後300年を記念して明治43年に建立されました。現在はパリスポットとなっています。

【国分寺】
奈良時代741年に、聖武天皇の命により全国に造られました。当時の肥前国では国府の東側に建立され、三重の塔・金堂・講堂・回廊・経蔵・鐘堂・僧房・食堂・僧庫が立ち並び、広さは、町(220m)四方であったと言われています。

【水前寺こいあかり】
平成26年2月に初めて開催された「水前寺こいあかり」では、たくさんの灯りで成徳園や参道周りが幻想的に彩られます。「こいあかりのついで」には、「恋」「壁」「来い」など様々な意味が込められています。

【水前寺もやし】
現在、上江津津湖にある芭蕉園内の湧き水だけで栽培されています。普通のものより4.5倍長さ35cmほどに成長し、長寿と健康を願う縁起物として、熊本では正月の雑煮にかかせません。

【水前寺公園】
東海道五十三次を模したとも言われる樹山式回遊庭園です。正面に見え、山奥は観音堂に浮かぶ富士のようであり、日の出とともに見るとまた格別です。

【椿公園】
国府一丁目緑地公園。地域の老若年寄りが集まり、グラウンドゴルフを楽しんでいる他、出水校区にあるきよめ保育園の運動会も行われます。地域の方々に親しまれた緑の多い公園です。

【いきなり団子】
熊本名物のひとつです。名前の由来は、お客さんが食べたら来てもすぐふるまえることや食べたらいきなり学が出てくると等、諸説あります。水前寺が発祥の地とも言われています。

【出水ふれあい通り】
当初は、水前寺公園通称から通称「本エノキ」まで約700メートルにわたる通りでした。ふれあい通りのイメージキャラクターは出水之介といます。

【お地藏様】
子どもたちの守り神であるお地藏様の縁日の8月24日に、愛育会(子ども会)が中心となり、地藏祭りを開催しています。

【校区大運動会】
出水校区では2年に1回、校区大運動会と銘打って、町内対抗の運動会を開催しています。校区の重要なイベントのひとつです。

【朝ボラ】
出水小学校では、6年生が自主的にあいさつ運動や美化活動等を行っています。その爽やかな姿は朝の風物詩となっています。

【ふれあいお手紙大作戦】
敬老の日になんで、出水小学校の児童が、地域の高齢者一人ひとりのお宅にお手紙を届ける取り組みで、地域との関わりを深める機会となっています。

【わんぱく広場】
主任児童委員や民生児童委員が運営主役の、地域の高齢者一人ひとりのお宅にお手紙を届ける取り組みで、地域との関わりを深める機会となっています。

【漢器堀川】
鳥渡橋付近では、以前は洗濯を行っていたことがよく知られていました。今では難が深ぐ清らかな水で、幼児とマタたちの交流の場となっており、楽しんで催しで喜ばれています。

【文学の散歩道】
江津湖湖畔に生まれた女流俳人、中村汀女の句碑とよまれば、あたりにふゆる、蜻蛉かな、等、江津湖湖畔にはたくさんの句碑が建てられています。また、「文学の散歩道」と呼ばれています。

【出水中学校】
「純朴の質實、好学の美風、遠大の理想」の校訓のもと生徒たちは何事にも粘り強く取り組んでいます。文化部、運動部ともに、部活動が盛んです。

【校区ふれあい学ぼう祭】
年に1回、防災訓練として11月頃に開催されています。爆竹の音とともに、町内毎に集合し、出水小学校校庭に避難します。地域の方が楽しめる防災イベントも行われます。

【後藤是山記念館】
後藤是山は、九州日日新聞(現在、熊本日日新聞)の記者でした。娘さんから市に寄贈された後藤是山邸は、現在、記念館として3町内にあります。

【出水小学校】
明治8年創立の歴史と伝統ある小学校です。平成26年に開校140周年を迎えました。校訓は「勤勉(勤しむ)子・明眼(明るい)子・健康(健やか)な子」です。

【古今伝授の間】
細川園童が慶長5年(1600年)関ヶ原合戦の際中に、後陽成天皇の弟、桂宮(智仁親王)に古今和歌集の奥義を伝授したといわれる建物が、大正元年に京都から現在地に移築されました。

【水前寺駅・新水前寺駅】
JR豊肥本線の水前寺駅と新水前寺駅との間は約60メートルの距離なので、互いのホームを見ることもできます。

【エノキング】
出水小学校の挨拶運動等に登場するキャラクター、着ぐるみは上級生が段ボールで手作りしています。下級生が集まってきて触ったりハイタッチしたりと、ポロポロになるほど人気です。

【熊野座神社】
イザナギノカミ他三神と菅原真が祀られています。また、国分寺七重の塔の心礎の石があり、その一部を今でも見ることが出来ます。

【子ども見守り隊】
防災活動の一環として、地域の防犯ボランティアが、出水小学校の児童の登下校の際に見守り活動を行っています。

【出水神社の新能】
全国で5番目に古い新能神事が、水前寺成徳園内の能楽殿で、毎年8月の第一土曜日に開催されています。

【戸井の外公園】
毎年、8月24日に、地蔵祭りが行われます。やぐらが立ち、校区の方が集まり、小学校の運動会で踊る出水音頭などを踊ります。

【からし蓮根・玄宅寺】
南隣だった細川忠利公のために、玄宅和蘭がからし蓮根を考案したと言われています。輪切りにした似り口が細川家の家紋(九曜紋)に似ていることから、長らく門外不出とされました。

【地蔵祭り】
通称「バンド公園」には、お地藏様が祀ってあります。毎年、地蔵祭りで、町内の子ども達が、お地藏様を引いて回り、夏休みの楽しい思い出になっています。

平成26年度事業報告	
事業名	平成26年度まちづくり推進事業「中央区お宝探検事業」
事業の概要・経緯	
目的 大人と子どもが自分の校区を探検することによって、お互いに知らなかった校区のお宝を発見し共有する。また、探検の成果を活かした他校区のまち歩きに参加し、中央区全体のまちづくり交流のきっかけになることを目指す。 概要・経緯 中央区が募集した、「地域が抱えている課題の解決や地域の魅力向上に資する具体的な取り組み」について、市民の方から提案いただいた事業アイデアをもとに、全4回の作業部会を経て、まち歩きを実施したものの。 平成26年度は、第1回目の実施であり、他の校区へのモデルとして、20年以上も一新校区でまち歩きガイドを続けている「一新まちづくりの会」の方に、高麗門の碑などの史跡や、しぼり屋などの老舗など、昔ながらの風情漂う新町界隈をご案内していただきながら、一時間半ほど散策した。また、まち歩き後には、参加者やまち歩き先駆者である「一新まちづくりの会」の方々をまじえ交流会を行い、まち歩きやまちづくりに関する意見交換を行った。 実施日 平成26年6月22日(日) 9:30～12:00 実施場所 一新校区 集合場所 熊本市健康センター新町分室 参加者 55人 (居住地:中央区:34人(うち一新校区:10人)、中央区以外:18人、不明:3人) (年代:～19歳:8人、～39歳:9人、～59歳:17人、～79歳以上:18人、不明:3人) 内容 8:45 受付開始 9:00～11:00 まち歩き(2km、1.5h程度のコース設定) 御客屋・しぼり屋・正妙寺・高麗門の碑・むろやを周るルート 11:00～12:00 交流会 まち歩きに関する説明・グループでの意見交換	
事業の成果・反響	
反響:参加者のアンケートから 新町に住んでいますが、知らないことがいくつかありました。良かったと思います。(60代以上 男性) 新町の歴史を知り、大変勉強になりました。説明・解説も満足しました。(60代以上 男性) 一新校区がこんなにおしゃれなまちだとは知りませんでした。若者もお年寄りも好きな風景がたくさんあって、また訪れたいと思いました。その際は、歴史についてももっと学んでから行こうと思います。(10代 男性) 新町は、小さい頃から通っていたのですが、なかなか立ち寄ることがなかったので、今回のまち歩きに関しましては、大変興味深い経験ができました。(20代 女性) 歴史的に貴重な建物等が見れて楽しかったです。新町には、なかなか来る機会がないので、良い経験になりました。(20代 女性) 新町、熊本に住んで40年。初めてゆっくり見て回ることが出来ました。今日以外の場所にも回ってみたいと思います。(60代以上 男性) わが町を愛している方々からの丁寧なお話がとても良かった。こんな方々がいらっしやる町に住みたいと感じた。(60代以上 女性) 効果 ・(校区内住民)新町の魅力を再発見し、自分たちの暮らすまちに対する意識を高めることが出来た。 ・(校区外住民)新町へ興味を持つきっかけとなり、区民の一体感を醸成することが出来た。 ・地域活動のヒントを得、地域活動への意欲が高められた。	

中央区のお宝を知ろう!! 中央区お宝探検事業

一新校区まち歩き 城下町にタイムトリップ

幕末の城下町鳥瞰図 画・浜崎一義氏



平成26年6月22日(日) ● 黄丸スタート・ゴール ・ ○ ピンク丸立寄り場所

集合・出発 9:30

一新校区まち歩きコース

解説は裏面

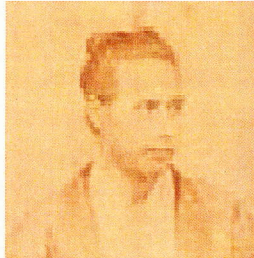
健康センター新町分室 → ①御客屋・明治天皇行在所跡 → 吉田松花堂 →
②しぼり屋岩原商店 → ③浄土真宗光雲山正妙寺 → 喜多流狩野秀鵬能楽研究所 →
④高麗門の碑 → 新鳥町・二葉ラムネ・菊の湯・さくら餅 → ⑤玩具・駄菓子問屋むろや →
長崎次郎書店 → (⑥森辛子蓮根店 → ⑦明八橋 → ⑧裏小路地藏 → 新茶屋 →)

健康センター分室 到着 11:00

交流会 11:00～12:00

一新校区まち歩きコースの解説

惣構の城下町・新町は、坪井川と井芹川と堀と土居で囲み、三つの櫓門と二つの須戸口門で出入り口を堅め、通行手形がないと出入りできない曲輪町でした。町割りには鉤形・短冊形が特徴で、先が見通せない遠見遮断の城内町で、町そのものの要塞としていました。町割りは今も昔のままです。

新町御客屋			正妙寺
			
勝海舟	坂本龍馬	西郷隆盛	福島峯雲作の格天井画

予定時間	旧町名	立寄	街頭見学・立寄り先	見どころ・解説
9:30	新二丁目		健康センター新町分室 集合・出発	センター前の電車通りは篤姫も通った薩摩街道です
	新一丁目	①	御客屋・明治天皇行在所跡	幕末に勝海舟・坂本龍馬が宿泊 明治5年、明治天皇ご臨幸時の行在所
	新細工町		吉田毒消丸の吉田松花堂	長崎でシーボルトに学び開業。全国に名を馳せた諸毒消丸。市景観形成建造物
	中職人町	②	しばり屋岩原商店	九州に名を轟かせた新町菓子。 老舗和菓子の町屋を見学
9:55	正妙寺町	③	浄土真宗光雲山正妙寺	堅山南風が師事した福島峯雲が描いた108枚の天井画と江島栄次郎作欄間・香炉
	青桐通り		喜多流狩野秀鵬能楽研究所	城下町の佇まいが残る正妙寺通り。 別名青桐通りと呼ばれています
	高麗門町	④	高麗門の碑	城の西を護る高麗式櫓門跡。高瀬の棟梁善蔵の逸話。春の熊本植木市発祥の地
	新鳥町		二葉ラムネ・菊の湯・小原商店 江戸時代、鳥商人がいた新鳥町	二葉ラムネメーカー。今も薪で湯を湧かす菊の湯。新町名物さくら餅
10:30	新鳥町	⑤	玩具問屋むろや	季節の人形店・玩具駄菓子店の倉庫を見学。江戸時代の井戸もあります
	新二丁目		明治7年創業・長崎次郎書店	夏目漱石や森鷗外も通った熊本初の書店 市景観形成建造物
お次時間 で…	新三丁目	⑥	熊本名物からし蓮根の元祖 森からし蓮根店	病弱な初代細川藩主忠利公に、玄沢和尚の提案を受け、辛子蓮根を考案し献上
	新三丁目	⑦	薩摩街道の要衝・新三丁目御門跡	新三丁目御門は熊本城最大級の櫓門。 現明八橋は名石工・橋本勘五郎の作
	塩屋町 裏一番町	⑧	裏小路地藏	塩屋町裏一番町のその奥にひっそりと祀られている400年の歴史を持つお地藏様
10:50	新二丁目		健康センター新町分室 到着	お疲れ様でした
11:00			12:00迄 交流会	まち歩きの感想をお聞かせください

■ 一新まち歩きの様子



平成26年度事業報告	
事業名	アクティブシニア増殖プロジェクト
事業の概要・経緯	
【目的】 これまでの仕事・家事・趣味等で培った知識や技術を活かして、地域に貢献したいという中高年の方々（アクティブシニア）に、活動が始めるため具体的にノウハウや活動の機会を提供し、自主的に展開できるように支援することでシニアの生きがいがづくりや地域の活性化につなげる。 【経緯】 アクティブシニアとして活動したい、地域貢献をしたいというメンバーを募集。 集まったメンバーで自分達でどんなことをしたいか、何ができるかということについて、毎月寄りあいという形で話し合う場をもち、「昭和」をテーマにイベントを企画し、昭和の町「豊後高田」の視察を実施。その後、具体的に昭和の良さを伝えるイベントを企画し、11月29日（土）と30日（日）に開催された「はあもにいフェスタ2014」で、昭和の遊びなどを伝えるコーナーを出展。そして、平成26年度のあくてい部の最後の活動として「レゴ®シリアスプレイ®」を使って組織で何ができるかという研修を実施。また、現メンバー及び今後のメンバーが活動する際に目印として使用するため、あくてい部のメンバーで考案したデザインのバッジを作成した。 寄りあい回数：11回 参加人数：23人	
事業の成果・反響	
【平成26年度あくてい部のメンバーへのアンケート結果及び今後の活動について】 寄りあい及び研修などの活動を通し、今回のメンバー同士、それぞれ技術を持った人のネットワークが構築されたと思う。 今後の活動について、12月26日にあくてい部のメンバーにアンケート（回答者15人）を実施、また、1月の寄りあいで話をした。その結果、あくてい部として商店街を活性化するため夜市をしたいということになり、それぞれ役割分担を決め平成27年4月以降も自主的に活動するということになった。	

事業の目的

これまでの仕事・家事・趣味等で培った知識や技術を活かして、地域に貢献したいという中高年の方々（アクティブシニア）に、活動を始めるため具体的にノウハウや活動の機会を提供し、自主的に展開できるように支援することでシニアの生きがいをづくりや地域の活性化につなげる。

寄りあいの開催

H26.5から全11回開催



【第7回寄りあいでの企画会議】

「自分達の昭和」について語り合った第1回目の寄りあいでは、初対面同士のメンバーだったが、思い出のお弁当や好きなテレビ番組、遊びなど共通の懐かしい話題で盛り上がった。

その後、寄りあいの回数を重ね、「昭和」で自分達で何ができるか、何がしたいかを話し合い、「はあもにいフェスタ」での昭和の遊びコーナーを企画。フェスタに向け、寄りあい日以外にも、竹鉄砲の竹を取りにいったり、お手玉の中に入れる数珠玉を取ったり、お手玉を縫ったりと各メンバーが手分けして準備した。

豊後高田の研修

H26.9.22

「昭和」をテーマで「はあもにいフェスタ」に出展するということが決まり、その具体的な企画をする前に、昭和のまち「豊後高田」に行き、実際のまちを見るときともに、昭和の町としての地域おこしの経緯などを聞く。

ボランティアガイドによる詳しい案内により、店舗毎に昭和の物をディスプレイをする工夫や、懐かしい駄菓子のお店などを見て回り、帰りのバスでは、メンバーで視察の感想や良かった点を話しあい「昭和」のイベントの具体的な案に繋げた。



【案内の説明を聞くあくてい部員】

はあもにいフェスタ2014での出展 H26.10.29～30



【竹鉄砲コーナーに集まる子ども達】

この平成の時代に“昭和”をプロデュースしようと「はあもにいフェスタ2014」で、親子で作って遊ぶ竹鉄砲やお手玉の体験コーナーくじ引きと引き換えの駄菓子コーナー、あくてい部のメンバーが大切に保管してきた昭和のお宝コーナー、読み聞かせのコーナーなど昭和の遊びコーナーを出展。

竹鉄砲を作るとき、ナイフを上手に使う子どもを見て驚く親御さんや一緒にお手玉に夢中になる親子連れ、懐かしいと遊びに参加するシニアの方など2日間で約530人の方があくてい部のブースに訪れた。

レゴ®シリアスプレイ®を使った研修

H27.3.12

1人ひとりのアイデアが集まりひとつになると、新しいストーリーが生まれるということ、また同じブロックを使っても皆それぞれ違うものが生み出されるということをレゴブロックを使って研修を行った。

また、今後アクティブシニアとして活動していく目印となるバッジのデザインを皆で考えた。デザインは昭和をイメージしたテレビと肥後ゴマの5色を使ったもの。



【レゴを使った研修とバッジ】

平成26年度事業報告

事業名 ⑥中央区地域コミュニティづくり支援事業

事業の概要・経緯

【事業概要】

魅力あるまちづくりを推進するため、校区自治協議会及びその構成団体や町内自治会が主体的かつ継続的に行う、様々な分野の地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けた取り組みを財政的に支援。

- 1 応募(企画提案)できる団体
 - ・校区自治協議会
 - ・校区自治協議会の構成団体
 - ・町内自治会
- 2 補助率及び補助金の額
補助対象事業費の1/2以内で、2万5千円以上30万円以内(千円未満端数切捨て)
- 3 審査の方法及び予算額
企画提案会(審査会)により審査し、予算総額100万円の範囲内で、補助対象団体及び交付額を決定。
- 4 採択団体一覧
別紙採択団体一覧のとおり。

事業の成果・反響

・向山校区第3町内自治会

『女子部「アマリリスクラブ」地域活性化事業～おばちゃんパワー全開プラン～』

「ここに住み続けるのだから歳をとっても歩いて行ける隣人、友人とつながろう」をコンセプトに、H26年1月に女子会(婦人会)を結成し、町内・校区に貢献しよう!という事業を展開する。H26年度は、新たにセイロ・法被を購入し炊き出し訓練、校区文化祭での踊りの披露、餅つきを実施。



・出水南校区ふるさとづくり推進自然と歴史・文化の会

『ふるさとづくり推進事業～みんなでふるさとの歴史と文化を知る事業～』

地域住民や小学生を対象に、出水・出水南地域の生い立ち、自然と歴史・文化について、紙芝居や購入したプロジェクター・スライド等を活用して説明。また、講演会や、まち歩きによる現地案内、出前講座も積極的に実施した。



平成26年度熊本市中央区地域コミュニティづくり支援事業採択団体一覧

校区・町内	事業名	事業の内容	補助決定額
出水南校区 第8町内自治会	地域の伝統 ・賑わい再生事業	町内夏祭りや、自主防災クラブの活動、老人会活動等、公園内で行う地域行事をより円滑に行うため、音響設備を購入するもの。 【補助対象】アンプ、スピーカー、スピーカーケーブル、オーディオ	88,000 円
一新校区 第2町内自治会	元気サロン いきいき活性化事業	月に1回2時間程度、元気クラブの75歳以上の方々を対象にしたサロン活動(おしゃべり会)にて、今回新たに、参加者に人気のあるビデオの上映会等を実施し、高齢者の憩の場を活性化するもの。 【対象経費】プロジェクター、スクリーン、ブルーレイレコーダー、スピーカー	124,000 円
帯山校区 第2町内自治会	防犯と防災の共助意識を高める、あいさつ運動	毎月第一月曜日帯山小学校の登校時間帯に、挨拶運動を行っている。町民の挨拶を通し、共助意識の啓発と交通事故防止の見守り活動を行う。襷をつけこの活動をアピールするもの。また、防災倉庫を設置し、防災資機材・非常食を保管する。 【対象経費】襷、防災用資機材倉庫（設置費込）	123,000 円
帯山校区 第7町内自治会	防災対策事業	非常時の避難訓練、特に高齢者・要援護者の避難、誘導訓練を行い、それに必要な用具及び一時避難場所の防災用具の整備を進め、地域の安全を守ろうとするもの。 【対象経費】防災頭巾、担架、車椅子、卓上コンロとボンベ、安全ステッキ 飲料水タンク	30,000 円
向山校区 第3町内自治会	向山校区第3町内自治会 女子部「アマリリス クラブ」地域活性化事業～ おばちゃんパワー全開 プラン～	平成26年1月に女子会（婦人会）を結成。そのコンセプトを「ここに住み続けるのだから歳をとっても歩いて行ける隣人、友人とつながろう」とし、町内・校区に貢献しよう！という事業を展開する。今年度は、炊き出し訓練、校区文化祭での踊りの披露、餅つきを実施。 【対象経費】法被、アルミせいろ3段セット一式 73,290円	65,000 円
砂取校区 第6町内自治会	リヤカーで資源ゴミ回収 増量作戦！	地域における資源ゴミ回収の啓蒙を図るため、詳細なゴミの分別の仕方等を載せたチラシを作成。毎月第2土曜日を資源ゴミ回収の日とし、リヤカーで町内を巡回することで、運搬が困難な高齢者宅等も回りやすくなる。また、この事業を通して、地域住民間の交流の向上を図るもの。 【対象経費】チラシ印刷費、リヤカー購入費	45,000 円
福祉ネットワーク 推進協議会 （出水南校区）	出水南校区 福祉ネットワーク推進協 議会ミニ交流会活性化事 業	町内ごとの福祉ネットワーク推進員の細かな取り組み状況や班員同士の交流を目的とした意見交換会を開催。また、介護予防物品を購入し、介護予防の専門的な知識を得て、地域主体による介護予防教室の開催を行うことで、介護予防に対する継続的な取り組みなど更なる活動の活性化につながるような研修会を開催するもの。 【対象経費】講師謝礼、資料印刷代、セラバンド、バランスボール他	35,000 円
ふるさとづくり推 進自然と歴史・文 化の会 （出水南校区）	ふるさとづくり推進事業～ みんなでふるさとの歴史と 文化を知る事業～	地域住民を対象として、出水・出水南地域（以下「出水地域」という。）の「自然と歴史・文化」及び地域の発展経過について知って貰うために、出水地域の生い立ち、自然と歴史・文化について、紙芝居やスライド等を活用して説明する。また、講演会や、まち歩きによる現地案内、出前講座も積極的に実施する。 【対象経費】プロジェクター、レーザーポインター、投影用スクリーン 他	206,000 円
青少年健全育成 協議会 （白川校区）	白川小学校区 ふれあいもちつき大会	校区内の大きな行事の一つであるもちつき大会を毎年実施。その中で、もちつきの道具を追加し、参加人数の拡大や、子ども達とのふれあう時間を拡大し、子ども達と一緒にもちつきや昔あそびを行い、顔が見える関係の更なるコミュニティづくりを行うもの。 【対象経費】石臼、かまど、セイロ、羽釜	109,000 円
補助額合計			825,000 円

2) 一新校区第2町内自治会
元気サロンいきいき活性化事業



4) 帯山校区第7町内自治会
防災対策事業



5) 向山校区第3町内自治会
女子部「アマリリスクラブ」地域活性化事業

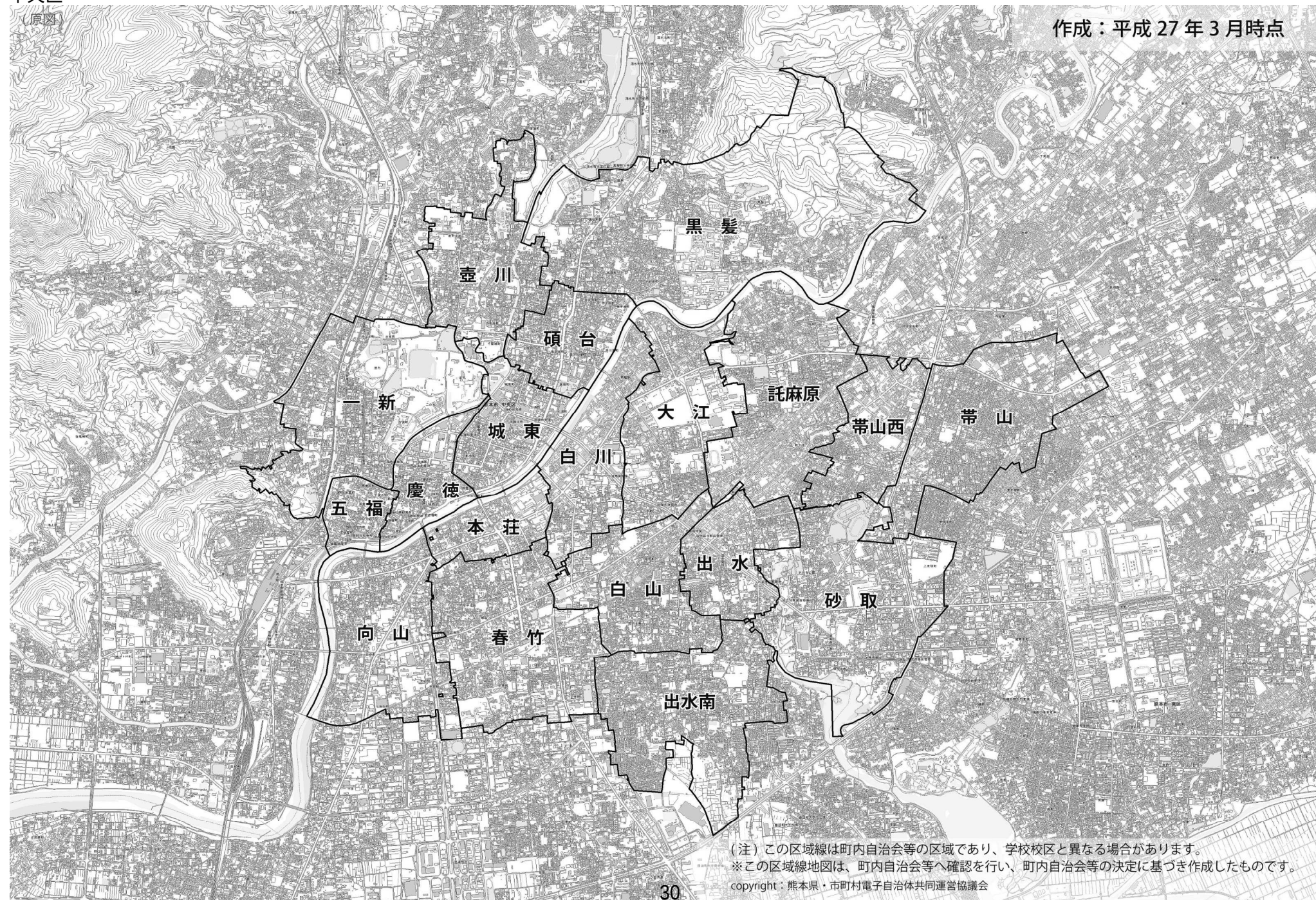


平成26年度事業報告	
事業名	校区の町内割入電子地図の作成と活用
事業の概要・経緯	
【目的】 熊本市中央区の各校区やその町内において「子育て」や「高齢者の見守り」、「防犯」、「防災」等の目的に合わせて、誰もが簡単に加工等が出来る校区ごとの町内割入電子地図を作成し、併せてその電子地図の印刷物の配布を目的とした。 【内容】 19校区の245町内割入電子地図を作成 (配布物) ・CDR(校区配布用95枚 19校区×5枚) ・印刷物(A4版3,944枚、A3版3,944枚) (配布先:校区自治協議会会長、民生委員・児童委員会、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター、管内小学校) オーバーレイバインダー作成 ・民生委員・児童委員の方々が、地域訪問時に使いやすく持ち運びし易いバインダーを作成 校区町内早見表および町内早見表(逆引)作成 ・くまもとGPMaPシステムへの校区・町内区域線引きデータを活用し、電子データとして作成	
事業の成果・反響	
【成果】 ・校区の各町内において活動されている民生委員・児童委員の方々が、地域を訪問する際に、持ち運びが容易で手軽に記入が出来て、子どもから高齢者までの訪問ケースがひと目で分かるオーバーレイバインダーを活用していただけたことが考えられる。 ・現況での事業の成果についてはこれからであり、配布した電子地図(印刷物、CDR)を、事業の目的である「誰もが簡単に加工等が出来る電子地図」として地域の方々に作成・活用いただけるよう、新年度の事業に繋げていきたい。 ・個人情報保護の観点から、取扱等についての注意事項を作成し、配布物に添付。	

中央区

(原図)

作成：平成 27 年 3 月時点



(注) この区域線は町内自治会等の区域であり、学校校区と異なる場合があります。
※この区域線地図は、町内自治会等へ確認を行い、町内自治会等の決定に基づき作成したものです。
copyright：熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

平成26年度事業報告

事業名 水前寺賑わいづくり支援事業

事業の概要・経緯

「水まち水前寺～春夏秋冬～」をテーマに、水前寺界隈の活性化に向けた取り組みを支援する。
熊本の財産である水前寺に光をあて区民と行政とが協働で取り組むことで、水前寺一体のまちの賑わいづくり支援と住民相互の交流を盛んに一体感やつながりを深めることを目指す。

<平成26年度の事業>

水前寺界隈のまちの賑わいを創出し、湧水と歴史のまち水前寺の魅力向上に資するため水前寺地域住民、地域商店街、行政などによる「水まち水前寺にぎわい祭り」を平成26年10月26日(日)に戸井の外公園で開催。(当初、10月12日開催であったが、台風の影響により延期実施。)

地元中・高校の演奏、メガネの似合う人コンテスト、RKKラジオ「Yabaらじ」水前寺Boy's&Girl'sコレクション、ダンスパフォーマンス等のステージ、新水前寺にぎわせ隊や高校生等によるバザー、働く自動車の展示等を実施した。

事業の成果・反響

第1回開催では多くの地域の方が参加され、その来場者も区内外より多数の方に訪れていただき、賑わいづくり・住民相互の交流に大きく寄与した。第2回開催では、前回の開催経験を踏まえ、より一層の賑わいを創出し、地域連携を高めるものとする。

〈開催体制〉

水まち水前寺実行委員会、中央区役所

〈開催場所及び来場者数〉

会場：戸井の外公園 来場者：約4,800人



平成26年度事業報告	
事業名	障がい児就労体験「ぶれジョブ」の拡大支援
事業の概要・経緯	
【事業概要】 現在一新・城西・黒髪校区で行われている「ぶれジョブ」活動を全校区に広げるための広報などを支援する。 ・リーフレットの作成、配布 ・参加者、ボランティアサポーター、協力企業の3者を集めての合同説明会の開催 参考 「ぶれジョブ」とは、知的・発達障がいなど支援を必要とする子どもたちを対象としたお仕事体験プログラムで、障がい児に社会性・適応性を育むとともに、地域の方に障害者に対する理解を深めていく活動 【経緯】 ○リーフレット作成 印刷部数 7000部 ○活動支援のための消耗品購入 腕章(反射材つき) 等 ○広報活動 ・シティFM「校区の力 拡大版」ぶれジョブ活動紹介 ・市政だより 2月号「こちら中央区です」 ぶれジョブリーフレットについて掲載 ・中央区つながるマガジン「まちのわ」 ぶれジョブ活動について掲載 ○説明会の開催 ぶれジョブ熊本にて説明会開催	
事業の成果・反響	
○小中学校への周知 〔配布先〕熊本市立小中学校 特別支援学校（小学校 94校 中学校 42校）700部 ぶれジョブ熊本 6100部 福祉課窓口 200部 特別支援学級にリーフレットを配布したことで、関心のある学校から問い合わせがあり、説明会を開催予定。 ○活動支援 反射材付きの腕章使用によって、夕方の活動が安心できるとの感想がえられた ○広報活動 ・市政だより掲載後、ぶれジョブ活動への問い合わせやリーフレット提供の依頼等関心の高まり ○説明会 ・黒髪、一新校区においては、継続して説明会を開催し、新たな参加者も増えている。 本事業は平成26年度で終了するが、今後もぶれジョブ熊本の活動を支援していく。	
 	

平成26年度事業報告	
事業名	中央区ぼうさいキャラバン
事業の概要・経緯	
日頃から災害に対する備えを心がけるため、子どもたちが防災・減災に役立つ行動や知識を楽しみながら身につけることができるよう体験型防災イベント「ぼうさいキャラバン」を校区ごとに開催し、防災意識の向上を図った。なお開催にあたってはPTA等に協力を依頼し、日頃地域活動への参加が少ない世代にも参加してもらえるよう、校区の防災イベント等に合わせて実施したもの。 《実施実績》(平成26年度は3校区) 1 帯山西校区(青少協主催の「防災キャンプ」の一部として実施) 日 時 平成26年7月27日(日)9:30～12:30 場 所 帯山西小学校体育館 参加者 25名 内 容 見る修行・聴く修行・災害時の心構え(災害を想定した訓練を行い、災害時の心構えについて伝授。) 防災宝探し(校区地図の中の災害に関する場所等にシールを貼り、日頃生活している学校を防災の視点から見つめなおす体験。) サバイバル飯炊き(空き缶等身の回りにあるものを使ってのご飯炊き体験。) 2 出水校区(校区防災訓練の一部として実施) 日 時 平成26年11月9日(日)9:00～12:00 場 所 出水小学校体育館 参加者 200名 内 容 新聞紙でスリッパの巻(がれきを想定し、手軽に手に入る新聞紙で簡易的なスリッパ制作。) 水圧体験(10キロの負荷を想定し、長靴にゴム紐をつけて模擬体験。) バケツリレー(バケツリレーのコツや共同作業時に気をつけることを体験。) 3 帯山校区(校区防災訓練の一部として実施) 日 時 平成26年11月23日(日)9:30～12:00 場 所 帯山小学校体育館 参加者 150名 内 容 サバイバル飯炊き	
事業の成果・反響	
・子どもたちが興味をもって参加でき、実践的で実のあるイベントとなった。また、親子での参加率も高く、日頃地域活動への参加が少ない世代の参加にもつながった。 ・初めて防災訓練を実施した校区においても、一部を担当したりアドバイスをしたりすることによって、より充実した防災訓練とすることができた。 ・事業の実施状況について子ども新聞に掲載することで、日頃からの防災意識の必要性について啓発を図ることができた。	

実施風景（写真）

1 見る修行・聴く修行・災害時の心構え



密着した5人の後ろでバスケットボールや巻物を動かし、誰が持っているかを当てる修行を実施。障害物に阻まれた際に、いかに目的の物が見えにくいかを体感してもらった。また、3人が同時に言葉や歌を発し、それを当ててもらう修行を実施。災害時にサイレンや屋外放送が聞きづらい状況になることを体感してもらった。その後、2つの修行を踏まえて災害時の心構えを伝授した。

2 水圧体験



水深と水圧の関係を分かりやすく説明。数分間で一気に水深が高くなるため、一瞬の判断が命とりとなることを説明した。また、水深が50cmで水の流れが1m/秒の際10キロ程度の負荷がかかるため、その負荷がどの程度かについて、長靴にゴム紐をつけて模擬体験してもらった。

3 サバイバル飯炊き



ビールの缶2本と牛乳パックを利用して米が炊けるメカニズムを体験。この体験では米の炊き方だけではなく、身の回りの物を活用することで問題の解決につながるということを学んでもらった。